

何でもお金が解決できる世の中になってほしくないですね。

中学生とはいえ、まだ子ども…悪いことをしたら保護者が謝らないといけないことも当然ある。しかし起きてしまったことは仕方がないので、自分がした行動としっかり向き合い、反省し、次につながるような経験を積み重ね、自分自身の行動に責任をもてる人になってほしいです。

自分達がしてしまった事に対して、謝れば許してもらえると考えるの甘さと、親の元で生活できているという事を先生は分かって欲しかったのだと思う。自分が自分のした事へ責任をもつ事の大切さも達成感を通じて伝えたいからなのではないでしょうか。おなる、しがるだけでは解決しない事があるなあと自分に対して見直りきっかけになりました。

子ども達はお客様じゃない。責任を持って行動し、やってしまった失敗には責任をはたす。子ども連だけで無理な部分を高井先生は手を貸してくれた。何ができて何ができないのか。失敗した後、自分なりに考えて行動することが大事。述げる、隠すごまかすでは何も成長しないということを高井先生は伝えたが、たのみなと思う。

「誰にどう」「誰がどう」という事にははく、善悪、それ以外でも、自分の責任、自分の意志で動く人財にしよう。指示待ち、人に言われたにのみははく、自分がどう考えるか、自分はどうしたいのかを考えた動く事が、この先大抵はかである。日々家族の話し合いの場の中で、この教科書に2次対話の場が設けられた。

何か失敗してしまった時にどう責任をとるかというのはとても大切なこと。特に予備校が何か迷惑をかけてしまった時に親としてどう指導するかを考えた時、この話はとても参考になりました。ありがとうございました。

や、てした事は反省すべき事だけかどその後の行動が大事だと思つて。過ちを犯すことは誰に  
でもあるけれどその後をどう生かすのか、どう自分で責任をどうとらえるのかを考えたほしい。  
あと親のお金を弁償した事は自分達の記憶にも残らない事になるだろう。自分達の  
責任の持て償ふことと同じ過ちを繰り返さないようにすると思つて。  
自分で自分の行動に責任と持てる人間になってほしいと思つて。